

メピコートクロリド剤によるブドウ '安芸クイーン' の花振るい防止

佐藤 孝宣・佐々木 恵美・高瀬 紘一

(山形県立園芸試験場)

Prevention of Shatter of Grape 'Aki Queen' with Mepiquat-chlorido

Takanobu SATO, Emi SASAKI and Koichi TAKASE

(Yamagata Prefectural Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

山形県内におけるブドウの品種構成は、'デラウェア'が主体で全体の70%以上を占めている。しかし、消費者の嗜好は大粒で味の良い高級ブドウへ移行しており、大粒系品種の導入にも積極的に取り組んでいく必要がある。

'安芸クイーン'は果樹試験場安芸津支場において、'巨峰'の自家受粉により育成された赤色大粒の新品種である。山形県立園芸試験場では、昭和61年から系統適応性検定試験を実施しており、その結果、平成6年に県の優良品種に取り上げられ、普及拡大を図っているが、品質的には'巨峰'より大粒で糖度が高く優れているものの、花振るい性がやや強い傾向がある。

そこで、安定した結実を得ることを目的として、メピコートクロリド剤(商品名フラスター液剤)処理による花振るい防止効果を検討した。

2 試験方法

- (1) 供試樹 '安芸クイーン' 6年生, 自根, コンテナ栽培, 土量36ℓ, 雨よけテント栽培(ビニール被覆5月19日)
- (2) 試験区 散布時期 ① 展葉7~8枚(5月23日)
② 展葉9~10枚(5月30日)
③ 無処理
散布濃度 500倍(展着剤10,000倍加用)
処理方法は電動噴霧器で薬液がしたたり落ちる程度に散布した。
- (3) 供試本数 1区 3樹
- (4) 栽培管理の概要
房の整形は開花直前に上部主梗を3~4段切除し, 12~14段残して下部を切除した。1房当たりの着粒数は20粒程度に摘粒した。
- (5) 調査方法
摘粒前(7月5日)に着粒数, 含種子数を調査した。果

実品質(着色, 房重, 着粒数, 1粒重, 裂果粒率, 屈折計示度, 滴定酸度)は収穫時(9月13日)に各区5果房を供試して調査した。果実の着色は5(濃鮮紅), 4(鮮紅), 3(淡鮮紅), 2(淡紅), 1(黄緑)の指数で表示した。新梢長, 葉数は各区全新梢について, 処理時から7日おきに測定した。

3 試験結果及び考察

新梢伸長の抑制は処理区で認められ, 処理時期としては展葉7~8枚散布区が9~10枚散布区に比較してやや抑制効果が高かった。新梢伸長の抑制は, 処理後7日目後から徐々に現れてきた(図1)。

展葉数は生育前半の6月中旬まで各区とも差は認められなかった。展葉数が新梢長の伸びに比較してさほど差がなかったのは, 新梢伸長の抑制効果は節間長の伸長が抑制されるためとみられた。しかし, 処理区は最終的には新梢の停止時期が早まるため, 展葉数は少なくなる傾向であった(図2)。

摘粒前の有核果数は処理区で多く, 特に展葉7~8枚散布区が9~10枚散布区に比較して多かった。含種子数は処理区で2個以上の果粒が多い傾向であったが, 全体の割合の比較では各区とも差は認められなかった(表1)。

果実品質では処理区の着粒数が無処理区に比較して多く房重も重かった。着色, 屈折計示度は無処理区が処理区に比較して良好であったが, これは無処理区の着果負担が処理区に比べて少なかったためと考えられた。裂果粒率は全

表1 メピコートクロリド剤の散布時期が'安芸クイーン'の結実に及ぼす影響(摘粒前)

試験区	有核果数 (個)	含種子数(個)		
		1	2	3以上
展葉7~8枚散布	33.7	27.6	5.3	0.8
展葉9~10枚散布	25.6	20.0	5.1	0.5
無処理	13.1	10.4	2.2	0.5

表2 メピコートクロリド剤の散布時期が'安芸クイーン'の果実品質に及ぼす影響

試験区	着色	房重 (g)	着粒数 (個)	裂果粒率 (%)	一粒重 (g)	屈折計示度 (BX')	滴定酸度 (%)
展葉7~8枚散布	4.1	319	21.5	26.6	14.7	17.3	0.32
展葉9~10枚散布	4.1	304	20.9	31.3	14.2	17.3	0.30
無処理	4.7	205	14.8	53.9	14.6	19.0	0.31

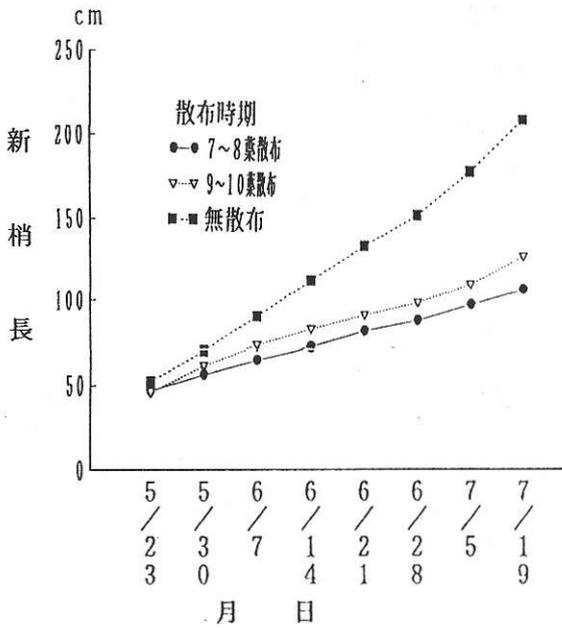


図1 '安芸クイーン' の新梢伸長の推移

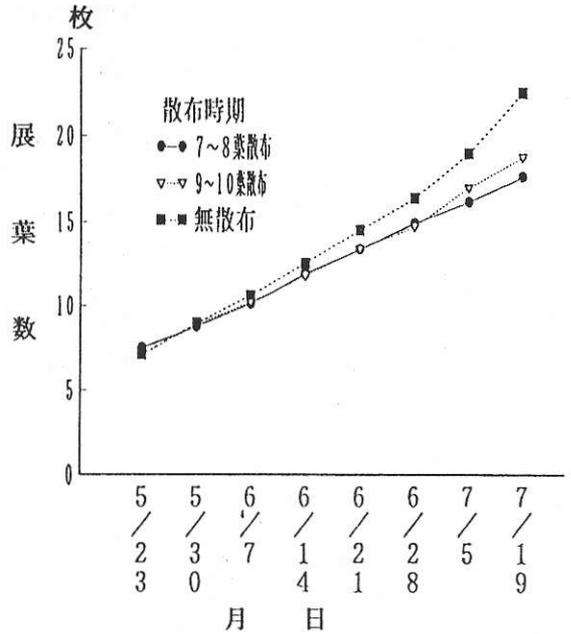


図2 '安芸クイーン' の展葉数の推移

体的に高い傾向であったが、これはコンテナ栽培における土壌水分の急激な変化によるためと考えられた。1粒重、滴定酸度は各区間に差は認められなかった(表2)。

4 まとめ

ブドウ '安芸クイーン' の花振るい防止のため、メビコートクロリド剤(商品名フラスター液剤)による結実確保について検討した。

新梢伸長の抑制は処理区で認められ、処理時期としては展葉7~8枚散布区が9~10枚散布区に比較してやや抑制

効果が高かった。

摘粒前の有核果数は処理区で多く、時に展葉7~8枚散布区が9~10枚散布区に比較して多かった。含種子数は各区とも差が認められなかった。

果実品質は処理区の着粒数が無処理区に比較して多く、房重も重かった。屈折計示度は無処理区が処理区に比較して高く、裂果粒率も大きい傾向であった。

以上の結果から、メビコートクロリド剤は '安芸クイーン' の花振るい防止に有効で、散布濃度が500倍の場合、散布時期は展葉7~8枚頃が適正と考えられる。